

2013



こころで聴く
三島由紀夫II

7/6 (土) 7/7 (日)

★10:00 ~ 12:30

レクチャー&演劇ワークショップ [定員20名]

「能」を紐解きながら「近代能楽集」の魅力を掘り下げるワークショップ

講師：篠本賢一 (日本演出者協会 理事)

★14:00 ~ 15:00 (受付開始 13:00 ~)

リーディング

三島由紀夫作 近代能楽集より「班女」

演出・出演：小林拓生 (日本演出者協会 国際部)

出演：神保麻奈

竹田りさ

朗読 (短篇・詩)

好村俊子

栗山寿恵子

松本紗奈美

制作 J-Theater

★13:00 ~ 15:00 (受付開始 12:00 ~)

リーディング

三島由紀夫作 近代能楽集より「葵上」

演出：宮田慶子 (新国立劇場演劇芸術監督)

出演：橋本 淳

河合杏南

山崎 薫

北澤小枝子

アフタートーク

「三島演劇の可能性」

宮田慶子 × 松本徹 × 佐藤秀明

(三島由紀夫文学館館長) (近畿大学教授)

制作 新国立劇場

参加費：無料

お申込み方法

往復はがき(6/30必着)、FAX、電子メールのいずれかで、1.住所、2.氏名、3.電話・FAX番号、4.参加をご希望のイベント番号(複数可)を必ず明記の上、当館にお申込み下さい

イベント番号
①7/6レクチャー&演劇ワークショップ
②7/6リーディング「班女」
③7/7リーディング「葵上」・アフタートーク

なお、複数名でのお申し込みの場合もそれぞれの1.住所2.氏名3.電話・FAX番号、4.参加をご希望のイベント番号の明記をお願いいたします。

※当日のお申込みでのご参加も可能です。

〈個人情報につきましては、第三者への開示、提供、または目的以外の使用等は、ご本人の承諾を得た場合を除き、一切致しません〉

お問合せ：三島由紀夫文学館 TEL0555-20-2655 FAX0555-20-2656 MAIL info@mishimayukio.jp

会場：山中湖村公民館

〒401-0501 山梨県南都留郡山中湖村山中 448

0555-62-4386



山中湖文学の森 三島由紀夫文学館

〒山梨県南都留郡山中湖村平野 506-296 http://www.mishimayukio.jp

入館料：大人500円、高校・大学生300円、小中学生100円※10名様以上から団体料金(50円引)※三島由紀夫文学館、徳富蘇峰館 両館共通チケット・開館時間：10時~16時30分(入館は16時まで) 休館日：月曜日(祝祭日の場合はその翌日)、12月29日~1月3日、資料点検日(不定期)※4月28日~5月6日の間は月曜日も開館 主催：山中湖文学の森 三島由紀夫文学館・山中湖村教育委員会

リーディング「班女」

リーディング「葵上」

「あなたに比べれば、どんな狂人だってまだ正気でしよう・・・」



新潮

「班女」初演雑誌及び書き出し

ひとりの男性を待ち続け、精神が破たんしてしまっ
た花子と共になら
ず一人の女性に
暮らす愛の情
を激しめる
その交錯する
思惑が交錯する

三島由紀夫作品

朗読「詩・短篇」

短篇「伝説」
詩 6~12歳の間に書かれた作品



演出 小林拓生

1966年生まれ。1997年にシェイクスピアコントリーパークのオープニングをプロデュース。2002年からJ-Theaterを主催し、シェイクスピア/チェーホフ翻訳作品、日本人作家シリーズとして近代~現代劇を上演。2012年からトウキョウ演劇倶楽部の演出を行う。俳優としてもNHK木曜時代劇「風の果て」「白洲次郎」「ハゲタカ」「宇宙戦艦ヤマト」等に出演。CMやナレーションも多数行っている。文化庁事業・日本の近代戯曲研修セミナー実行委員。日本演出者協会国際部所属。

ワークショップ

「能」を細解きながら「近代能楽集」の魅力を掘り下げるワークショップ

…三島由紀夫は能楽の何を破壊し、何を再生させたのか。原曲との比較の中で近代能楽集の魅力を追体験します。



ワークショップ講師 榎本賢一

1961年生まれ。「遊戯空間」主催。1991年より故郷世榮夫に師事し17年間、能のメソッドを学ぶ。木下順二作『子午線の祀り』などにも参加、古典芸能を視野に据えた現代劇創作を続けている。また、現代詩人・和合亮一、高貝弘也らとの交流から現代詩とのコラボレーション「詩×劇」にも取り組んでいる。現在、日本演出者協会理事、映画甲子園審査委員、杉並演劇祭審査委員。最近の主な演出作品は三島由紀夫『近代能楽集』、泉鏡花『草迷宮』他。

(1925~1970) 東京生まれ。本名・平岡公威(ひらおかきみたけ)。10代初期から小説を書き始め、たぐい稀な才能を發揮。学習院を経て東大法学部卒業。在学中に『花ざかりの森』を出版。大蔵省に任官するが退職し「仮面の告白」で一躍、文壇の寵児となる。以後、小説だけに留まらず、戯曲、評論、役者など多彩な活躍を続けた。代表作は「仮面の告白」「潮騒」「金閣寺」「サド侯爵夫人」「豊饒の海」。



新潮

「葵上」初演雑誌及び書き出し

美貌の青年、若林光は、妻の入院した病院に訪れる。眠る妻の傍らで看護婦と会話を交わす中、来訪者が現れる。狂気と現実の狭間の世界が現れる。交錯する情念の渦…

「夜の空気は 共謀して 憎しみは 愛と。 苦しみは 喜びと。 夜の空気の中で 手を握るの…」

演出 宮田慶子



1980年、劇団青年座(文芸部)に入団。翻訳劇、近代古典、ストリートプレイ、ミュージカル、オペラ、商業演劇、小劇場と多方面にわたる作品を手がける一方、演劇教育や日本各地での演劇振興・交流に積極的に取り組んでいる。第29回紀伊國屋演劇賞個人賞(『MOTHER』)、第5回読売演劇大賞優秀演出家賞(『フエヒコ』)、98年芸術選奨文部大臣新人賞(『デア・ライアー』)、第43回毎日芸術賞千田是也賞・第9回読売演劇大賞最優秀演出家賞(『赤シャツ』『怪しい女』『サラ』)など受賞。新国立劇場では、『朱雀家の滅亡』、『負傷者16人-SIXTEEN WOUNDED-』、『るつぽ』、オペラ『沈黙』等を演出。2010年9月より新国立劇場演劇芸術監督。

近代能楽集

新潮社、昭和三十一年四月

古典芸能である能を三島が現代化したもの。時代を超えて人間の普遍的な部分を表現している作品集である。「葵上」、「班女」を含む全5作を収録。現在、全8作を収録して新潮文庫より発売中

アフタートーク 「三島演劇の可能性」

宮田慶子 X 松本徹 X 佐藤秀明
演出家 宮田慶子氏を中心に、演出家からみた三島演劇の魅力と、三島演劇の現代における意味を語り合います。

新国立劇場

新国立劇場は、オペラ、バレエ、ダンス、演劇という現代舞台芸術のためのわが国唯一の国立劇場です。本格的な四面舞台を備えたオペラ劇場、中劇場、小劇場の3つの劇場を擁し、1997年の開場以来、常に高い水準の公演を自ら企画・制作し続け、国内外から高い評価を得てきました。また、人材育成も重要な事業の一つであり、「オペラ研修所」、「バレエ研修所」、「演劇研修所」の3つの研修所を持ち、次代を担う若いオペラ歌手をはじめ、バレエダンサー、俳優のために独自のプログラムによる充実した研修を積極的に行い、その活動が高く評価されています。

三島由紀夫文学館のご案内

山中湖文学の森 三島由紀夫文学館



交通のご案内
路線バス・富士山駅(富士吉田)から25分、御殿場駅から40分
文学の森公園前バス停下車 徒歩5分
高速バス・中央高速バスで山中湖(旭ヶ丘バスターミナル)下車 徒歩15分
マイカー等・山中湖IC.から国道138号線を山中湖方面へ4km

休館日
月曜日(祝祭日の場合はその翌日)、12月29日~1月3日、
資料点検日(不定期)、※4月28日~5月6日の間は月曜日も開館

入館料	一般	高校 大学生	小 中学生
個人	500円	300円	100円
団体	450円	250円	50円

※団体は10名様以上
※三島由紀夫文学館、徳富蘇峰館 両館共通チケット

〒401-0502
山梨県南都留郡山中湖村平野 506-296
TEL0555-20-2655 FAX0555-20-2656
http://www.mishimayuko.jp